Medical and Pharmaceutical Society for WAKAN-YAKU

麻黄湯の神経・内分泌・免疫系相互連関に対する影響についての検討

○貝沼茂三郎、関矢　信康、高木しのぶ、嶋田　　豊、寺澤　捷年

富山医科薬科大学・医学部・和漢診療学講座

［目的］

現在我々は、C型慢性肝炎に対してインターフェロン(以下IFN)と麻黄湯の併用療法を行っているが、併用群においてIFN単独群と比較して血中IL-6およびIL-1receptor antagonist(以下IL-1ra)の有意な上昇が得られている[1]。そこで今回我々は麻黄湯の神経・内分泌・免疫系相互連関に及ぼす影響について自己対照試験を行い、検討したので報告する。

［対象と方法］

健常男性9例(20～30歳)を対象とした。朝8時30分に麻黄湯(麻黄6g，杏仁6g，桂皮4g，炙甘草2gの煎液，37℃，300ml)を服用。服用前、服用後30，60，90，120，150，180分で各種パラメーター(収縮期血圧/拡張期血圧、体温、脈拍)を経時的に測定した。また各測定時点で採血を行い、カテコラミン(アドレナリン、ノルアドレナリン、ドパミン)、ACTH、コルチゾール、血中サイトカイン(IL-6, IL-1ra)を定量した。一方、自己対照群は、麻黄湯を服用4週間後に、微温湯(37℃, 300ml)を朝8時30分に服用し、麻黄湯内服時と同様のパラメーターについて測定した。

［結果］

収縮期血圧は、麻黄湯服用群で対照群と比較して有意に高かった(P=0.021)。また体温、脈拍数も麻黄湯服用群で対照群と比較して有意に上昇していた(P=0.024, 0.019)。さらにACTH、コルチゾールにおいても麻黄湯服用群で対照群と比較して有意に高かった(P=0.001, 0.023)。なおカテコラミン3分画には両群に有意差はみられなかった。サイトカインに関しては服用前と服用3時間後の変化率で比較すると、IL-6は、麻黄湯服用群で対照群と比較して有意に高かったが(P=0.045)、IL-1raは有意差はなかった。

［結論］

麻黄湯が、神経・内分泌・免疫系相互連関に作用し、生体防御反応を増強している可能性が示唆された。

1) M.Kainuma et al. Phytomedicie (in press)

NII-Electronic Library Service